

【正誤お詫び】本書に以下の誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

『社会福祉法人会計 簿記テキスト《入門編・初級編》』（第1刷）正誤表

(H28. 10. 4)

	訂正箇所	誤	正
本	30 頁下2.フローの計算書の表内の順番	⑤経常経費寄附金収益(収入) ⑥設備資金借入金収入	⑤設備資金借入金収入 ⑥経常経費寄附金収益(収入)
	64 頁上から3行目	観点 <u>ら</u> からは	観点からは
	66 頁の図の期中取引②③の借方に4行目	事業未収金が増えます。	事業未払金が増えます。
	66 頁 取引②③後のB/S次期繰越活動増減差額	500	200
	76 頁下部の仕訳の上の行	仕訳は、次のうに	仕訳は、次の <u>よ</u> うに
	78 頁左下の文章1行目	10/31 の <u>仕分け</u> を	10/31 の <u>仕訳</u> を
	78 頁左下から2行目	2/25 の <u>仕分け</u> を	2/25 の <u>仕訳</u> を
	79 頁左側の仕訳真中保育事業収益の部分	3/31 事業未収金 <u>670</u>	3/31 事業未収金 <u>600</u>
	86 頁⑥仮払金「6月12日」の仕訳の借方	<u>旅費交通費</u> 280	<u>研修研究費</u> 280
	92 頁「試算表の計算は」の表の下から2行目・3行目、摘要欄・期末残高欄	P/L収入・P/L支出	P/L収益・P/L費用
	117 頁本文下の囲み内	○徴収不能引当金・・・資産のマイナスの説明文(※)追加	※具体的な記載方法として、貸借対照表の資産の部に「徴収不能引当金」をマイナス項目として記載する方法と、旧会計基準のように、対象債権から控除した残額を貸借対照表に記載する方法とがあります。
	117 頁本文下の囲み内	退職給 <u>与</u> 引当金	退職給 <u>付</u> 引当金
	127 頁施設整備等補助金収益と施設整備等寄附金収益の勘定口座の様式	下記欄外様式☆のとおり	
128 頁精算表の期末B/S欄の長期運営資金借入金・基本金・国庫補助金等特別積立金の欄	空欄	網掛	
129 頁練習問題と141 頁の資金収支計算書の1行目	差異(A) <u>±</u> (B)	差異(A) <u>＝</u> (B)	

	133 頁最初の「例」の仕訳の下 2 行目	費用の <u>繰越</u> べ	費用の <u>繰延</u> べ
	132 頁「第 1Step」最終行	預金出納 <u>長</u>	預金出納 <u>帳</u>
	136 頁本文 10 行目	固定資産	流動負債
	144 頁要約 B/S	固定負債	固定資産
	144 頁要約 B/S	固定資産	固定負債
	146 頁貸借対照表(B/S)の純資産の部の次期繰越活動増減差額	60	160
	148 頁【解答欄】の1.の「流動負債」右の欄	<p>_____</p> <p>_____</p>	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
	148 頁【解答欄】の2.	<u>収支計算書</u>	<u>フローの計算書</u>
	150 頁「第2号の1様式」の費用	<u>サービス活動収益</u>	<u>サービス活動外費用</u>
	150 頁「第2号の1様式」の収益	<u>サービス活動外費用</u>	<u>サービス活動収益</u>
	151 頁の 1 行目	<u>収支計算書</u>	<u>資金収支計算書</u>
	158 頁の 5 行目の元帳	<u>現金貯金</u>	<u>現金預金</u>
別冊 (解答編)	8 頁下 2. フローの計算書の表内の順番	⑤ 経常経費寄附金収益(収入) ⑥ 設備資金借入金収入	⑤ 設備資金借入金収入 ⑥ 経常経費寄附金収益(収入)
	15 頁⑧借方	旅費交通費 150 研修研究費 120	研修研究費 270
	35 頁と 40 頁の資金収支計算書の 1 行目	差異(A) <u>+</u> (B)	差異(A) <u>-</u> (B)
	38 頁1年以内返済予定設備資金借入金の決算整理仕訳貸方⑤	4	その欄は空欄で「4」を1段上の徴収不能引当金の決算整理仕訳貸方へ
	38 頁1年以内返済予定設備資金借入金の期末 B/S 貸方	54	その欄は空欄で「54」を1段上の徴収不能引当金の期末 B/S 貸方へ
	38 頁最終列の「増減等(収支)合計」の期末 B/S、借方、貸方	借方、貸方共に <u>19,000</u>	借方、貸方共に <u>19,100</u>

43 頁【解答欄】の1の「流動負債」右の欄	短期運営資金借入金 700 事業未払金 <u>610</u>	短期運営資金借入金 700 事業未払金 <u>460</u> <u>その他の未払金 150</u>
43 頁【解答欄】の2.	<u>収支計算書</u>	<u>フローの計算書</u>

☆本文 127 頁訂正部分 (誤)

24年 月 日	摘 要	資金増減取引		その他取引		差引残高
		借 方	貸 方	借 方	貸 方	
4						
	取引合計					

(正)

24年 月 日	摘 要	資金増減取引		その他取引		差引残高
		借 方	貸 方	借 方	貸 方	
4						
	取引合計					

★テキスト 37 頁下の 2 行は問題文ではなく、演習結果から何が読み取れるかを問いかける文章ですので、解答はありません。なお、支出・費用が一定であれば、次期繰越活動増減差額を毎年±0にするために、あと 1,500 の収入・収益を増加させる、つまり $8,000 + 1,500 = 9,500$ の収入・収益があればよい、と考えることができます。